

森林資源利用学特論 (2単位)

担当者氏名 江口文陽、大林宏也

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

資源は持続的な利用が可能であり、利用に伴う環境への負荷が小さくなくてはならない。森林資源である木材や特用林産物はそのような性質をもともと備えているが、21世紀の科学進歩に即した技術を駆使した活用法においても環境負荷への限りない軽減が図られなくてはならない。その目標を達成するための学理と先端を学び、実用化による産業振興を図るとともに世界のグローバルスタンダード製品としての評価を得るための技術力を探求する発想力を養うこととする。特に化学的手法と物理学的手法との評価・検討が可能となるように教育する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

資源循環制御工学

森林資源利用学

林産製造学

森林化学

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	概論(第1回)	森林資源利用学とは何か。基本的な課題の修得。 (担当 江口文陽、大林宏也)	◎本授業のねらいは、森林資源利用学に関する知識や理論の基本的な解説のもと、教員と院生および院生相互における深いディスカッションを重視する。◎事前の学習内容を事前に通知し理解度を高める予習を提示、要点を記載した印刷物などの配布と講義後の復習の徹底を図る。
2	林産製造学および森林化学(第2回～第8回)	林産物としては、木本植物、草本植物、微細藻類、きのこなどの資源が活用される。化学工業原料としての資源を製品として製造するための包括的な先端技術と研究開発法を修得する。(担当 江口文陽)	
	木材工学(第9回～第15回)	木材に代表される森林資源の物理的利用方法を中心に概説し、木材の性質や加工方法ならびに木質材料の製造法や性質などやそれらに関する研究手法について学習する。(担当 大林宏也)	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

特論で論じるテーマに応じて印刷物などを事前に資料として配布する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

内容が広範囲の分野におよぶためテーマごとに適切な参考書を紹介する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウエイト)

レポート・プレゼンテーション・ディスカッション・試験による総合評価とする

◆オフィスアワー

毎週月曜日の午後、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

特論開講時に受け身の姿勢で学ぶのではなく常に当該分野と社会との関わり合いに興味を持ち、自らの発想法のもとに授業に参加することが肝心である。